

人民会報

発行所 社
造 反
編集発行人 ウノツカ

号 外
1頁 0円

邦ロック粉碎！
ロックンロール奪還せよ！
自爆
革命！前衛委員会

12・17

渋谷CLUBQUATTROを 革命的人民の波で埋めつくせ！

ー音楽独占体の延命阻止し、中央芸術闘争の爆発を！

メンバーアツピール

今日までそして明日から

ササキ

バンドを始めたら、髪が伸びて、頬がこけた。彼女に3回振られて、友達が減った。吉野家から松屋になって、カーハートから婦人服になった。ラーメンからサラダになって、ザクからグフになった。副都心線から常磐線になった。友達からメンバーに、オールドからレンドに、フェンダーからフォトジェニックに、地デジからアナログに、スタートリンからフルシチョフに、ワイドパンツからベルボトムに、パンクからロックになった。来る縁去る縁、色々あった。

「ロックンロールの復活」そんなの、いつから考えてたろう。スーパリーのバイト中に流れる音楽に腹が立つてからか。あの子がMCOP聴いてたからか、言い訳か、手段か、俺にはよくわからない。ロックンロール、それはダンスミュージック。精神性じゃない。スリーコードで踊らせろ！ハッキリするのは、20世紀に戻りたい。誰がどう反対しよう、夢の時代じゃ無かったと言われようと、そんなことどうだっていいくらいにあの大躍進の時代に憧れているんだ。だから歌ってる。だから自爆を

バンドとは何か

高松名人

バンドとはなんだろうか。

スタジオではミュージシャンでありながらプレイヤーであり、ステージではショーマンでありエンターティナー。日頃はデザイナーであり広報であり、映像作家でありマネージャーであり、個人事業主である。名も無き家事のように無数の小さなアマチュア仕事を寄せ集めてみる。それがバンド。

思い返せば九二年前の12月が人生で初めて知らぬ人の前でギターを弾いた日である。秋葉原のスタジオで学生無料のライブ（どうやら運営がスタッフへの未払いかなんかで揉めたらしく、まだやってる分らない）にて、当時ギターのじつとオダブツが出れず、ガンジーがドラム、当時スタッフだった自分がリードで入った。夙川BOSSながらの3ピースで暴れたのが始まりだった。

バンドメンバーを探しに芸術大学に入学したもの、かつての雑誌に書かれていた殺伐さは校舎諸共無くなっており、SDGsなラフアンドピースよろしく塩素消毒された校舎に意気消沈した自分と借り物の攻撃的なリフは相性が良く、初ライブにも関わらず緊張よりも誰に向けたものでもない怒りが先立った記憶が残っている。それから数ヶ月、あちこちでマイクヘッドを壊して回った。演奏というには拙く、悪あがきそのものだった。法外な弁償もさせられたし、ステージ上で

イクヘッドを壊して回った。演奏と言うには拙く、悪あがきそのものだった。法外な弁償もさせられたし、ステージ上でお互いに不満をぶつけ合った。ただそのどれもが青春であり闘争であった。やるせなさをインディーズのしきたりに当て付けた結果、バンドがやるとシヤバイとされていた縦長の動画で数字を出し、ツイッターで大口叩いて悪目立ち、どのブックイングもセンスがねえと言わんばかりに企画を打ちトレンド入りまでさせた。そんなことばかりをやってきて、今日という日を迎えるに至った。

バンドとは、わずか数人の人生から、何百人何千人の人生に変化を与える物語だ。今日という日が、歴史の転換点になることを願って。

パンク解体論

武田ガンジー

私はかつてパンクロックに夢を持っていた。だが今年の夏ごろにすべて失った。私はパンクロックを憎んでいる。私がいかに棄教したかを語ろう。

私ははぐれ者の表象として不良文化を纏っていた。パンクスのような不良ははぐれ者だと勘違いしていたからだ。しかし今なら言える。パンクロックが不良の音楽なら、それは私の音楽ではない。私は不良が嫌いだ。不良ははぐれ者ではない。ただの不良というグループだ。日本のパンクスと呼ばれる連中は十中八九だの不良だ。はぐれ者ソラしている人も当然いる。でも奴らは群れだ。くだらん。

世代や集団によって不良文化の表れは異なる。ライダーズにデニムにドクターマー

チンの奴も、ジャージにサンダルを履いている奴も、どちらも不良文化に属していることには変わりない。奴らは社会への馴染めなさをアピールする。しかし奴らは不良という小集団の中で威張りたいたいだけ。くだらん。「馴れ合いをやめろ」という奴ほど馴れ合いで身を落としていくところを何度も見た。それは「馴れ合いをやめろ」ということがその集団における不良文化だったただだから。そして弱者ソラをしながら本当に力の弱い人をタコ殴りにする。そんな事例を、この半年ほどで嫌というほど見てきた。私はもうパンクスに興味がない。くだればばいいと思う。

パンクを言い訳に悪をはたらくすべてのパンクスが地獄に堕ちますように。パンクスを粉砕せよ。パンクロックを解体せよ。

不審者情報

汚駄物

警察官にに対し手に持っていた凶器で襲いかかるなどしたとして、東京都池沼署は32歳の男が現行犯逮捕された。

4月8日午後9時頃、東京都新宿区里8丁目9-3にあるライブハウス付近にて、右手に凶器を持った男が暴れているという通報があり、警察が駆けつけたところ、興奮状態の男が警察官に向かって「お前に天誅！」と連呼し、手に持っていた凶器で襲いかかるなどの殺人未遂の容疑が持たれている。逮捕されたのは住所不定・無職の板刈康（いたがり やすし）容疑者。警察の調べに対し板刈容

闇市特集

その実態とは――

サマサマコ

X : INSTA@samusamako_22

マッキー、ポスカというシンプルな画材と目に刺さるような色彩で2022年から絵描きとして活動中。

日本のサブカルチャー、ロックンロール、縄文文化などの影響を軸に、荒々しい構図とは相反するディテールが目を引く作品を描く。アンバーな作風から「大阪派」と称されることも。

グッズデザインもっており、ライダー、ステッカーからフィギュアまで幅広く制作している。

暴動クラブ鈴木老歩氏のドラムヘッドのペイントや、「暴動クラブ追加単独公演」「自爆帝国」のフライヤーも担当。

また男が手に持っていた物は先の尖った。また男が手に持っていた物は先の尖った。また男が手に持っていた物は先の尖った。

2022年に行った初個展「初期の様子」や合同展示「火種」等、展示活動も積極的に行う。2025年10月に行われた展示「サマサマニ(SOCKWAVE)」では西成の四畳半のアトリエに3日間約60人を集客するという大成功を収めた。

自爆宣言では、自爆メンバーが選んだ作品と描き下ろしを数点展示。是非ご覧あれ。

『大衆に告ぐ』LP

¥5500

腕章

¥2000

人民ライター

¥500

笛

¥500

自爆宣言「シヤツ

M・L・XL

¥4000

目玉「シヤツM・L・XL

¥3000

ヘルメット

¥5000

ラバーストラップ

¥1000

ステッカー各種

¥0

どうしても印刷が必要な場合を除き、自分で印刷した素材には頼りません。すべて、自分の足で集めた雑誌だけを切り貼りしています。でも、ただの切り貼りなら誰でもできる。だからこそ、作品には自分なりの意味や世界観を込めています。

最初は「ダダイズム」破壊の芸術、縄文文化などの影響を軸に、荒々しい構図とは相反するディテールが目を引く作品を描く。アンバーな作風から「大阪派」と称されることも。

グッズデザインもっており、ライダー、ステッカーからフィギュアまで幅広く制作している。

暴動クラブ鈴木老歩氏のドラムヘッドのペイントや、「暴動クラブ追加単独公演」「自爆帝国」のフライヤーも担当。

また男が手に持っていた物は先の尖った。また男が手に持っていた物は先の尖った。また男が手に持っていた物は先の尖った。

2022年に行った初個展「初期の様子」や合同展示「火種」等、展示活動も積極的に行う。2025年10月に行われた展示「サマサマニ(SOCKWAVE)」では西成の四畳半のアトリエに3日間約60人を集客するという大成功を収めた。

自爆宣言では、自爆メンバーが選んだ作品と描き下ろしを数点展示。是非ご覧あれ。

『大衆に告ぐ』LP

¥5500

腕章

¥2000

人民ライター

¥500

笛

¥500

自爆宣言「シヤツ

M・L・XL

¥4000

目玉「シヤツM・L・XL

¥3000

ヘルメット

¥5000

ラバーストラップ

¥1000

ステッカー各種

¥0

福政良治

X@FUKIMASARYOJI

フォトグラフィ／アートディレクターとして、様々なミュージシャンなどのアートワークを数多く手掛ける。自爆写真展示／販売展

自爆の2025年の活動が分かるような、ライブ写真を中心に、写真を展示及び販売致します。お気軽にお越しください！

しかしながら、我々はどこで自爆したか？そもそも、我々は諸問題を認識すらできていなかったのでは？

横断性 la transversalité だのなんだのいつていたが、もはや手遅れだったのでは？

静寂主義 le quietismeに留まっている時間は、ない。ましてや、後期資本主義的享楽 jouissanceを食する時間。

全ての些細な判断はengagementであり、静的ダイナミズムである。ことを忘れてはならない。それが、人類全体の行為ではなかったとしても。（そんなことがあり得るのだろうか？）

プラスチックのティラノサウルスを握っている子供は、実際に、化石燃料が産み落とした自己増殖のbootlegの恐竜、それも本物の恐竜を握っていることに気がつく。なんにしても、パスタを食べるような朝は最悪である。

ウノツカ

X@unotsuka_i

INSTA@unotsuka_i Love_u

世界は今まさに、戦争か革命かの激動の情勢に突入した。自国帝国主義を打倒する戦いにこそ労働者階級人民の

目玉のロックンロールバンド、始動

ウエノハルキ

2024年春、私は悪いモノを目撃した。初めてイヤフォンから流れる彼らの音楽を耳にした時、ロックンロールは死んだなんてタラシかったのだと思ひ知らされた。ある日某配信サイトを覗き流していたところ、自爆に出会った。どこか古く懐かしいサウンド。ロゴやグッズ、精神性まで抜かりなく一貫したスタイル。

すぐにライブの予約をしたは良いものの、初めてのライブハウスにとても緊張していた。しかしそんな不安も「高松名人の爆音のリフを聴いた瞬間に吹き飛んだ。私の脳みそは爆発寸前で踵を正めようにも止まらない。私の人生で物凄く記憶に残っている瞬間のひとつだ。」

今宵君達はロックンロールのバトンを新たに引き継いだ最も古くも新しい音楽を耳にする。

衝動の時代に生きる

堀内 遥

今必要とされるべきものは何かそれは「衝動」である。誰もが声をあげられる反面、声を上げることもそのものの価値は減落した。故に真正面から衝動をぶつけてくる表現と出会うことは、ますます難しくなっている。また、今のチャートを狙う音楽は、大衆の嫌きやさすがに優先され、徹底的に漂白無害化される。つまり、社会にとって「扱いやすい」ように表現がテニ入れられていくのだ。このような時代だからこそ本気の「衝動」が求められている。

自爆の音楽は衝動の連鎖を生み出し、身体を描きぶるような直感が確かに存在している。いまを生きる実感として響いている。時代に飲み込まれない、そのまっすぐな衝動をこれからも響かせてほしい。

ファンの声

目玉のロックンロールバンド、始動

ウエノハルキ

2024年春、私は悪いモノを目撃した。初めてイヤフォンから流れる彼らの音楽を耳にした時、ロックンロールは死んだなんてタラシかったのだと思ひ知らされた。ある日某配信サイトを覗き流していたところ、自爆に出会った。どこか古く懐かしいサウンド。ロゴやグッズ、精神性まで抜かりなく一貫したスタイル。

すぐにライブの予約をしたは良いものの、初めてのライブハウスにとても緊張していた。しかしそんな不安も「高松名人の爆音のリフを聴いた瞬間に吹き飛んだ。私の脳みそは爆発寸前で踵を正めようにも止まらない。私の人生で物凄く記憶に残っている瞬間のひとつだ。」

今宵君達はロックンロールのバトンを新たに引き継いだ最も古くも新しい音楽を耳にする。

衝動の時代に生きる

堀内 遥

今必要とされるべきものは何かそれは「衝動」である。誰もが声をあげられる反面、声を上げることもそのものの価値は減落した。故に真正面から衝動をぶつけてくる表現と出会うことは、ますます難しくなっている。また、今のチャートを狙う音楽は、大衆の嫌きやさすがに優先され、徹底的に漂白無害化される。つまり、社会にとって「扱いやすい」ように表現がテニ入れられていくのだ。このような時代だからこそ本気の「衝動」が求められている。

自爆の音楽は衝動の連鎖を生み出し、身体を描きぶるような直感が確かに存在している。いまを生きる実感として響いている。時代に飲み込まれない、そのまっすぐな衝動をこれからも響かせてほしい。

目玉のロックンロールバンド、始動

ウエノハルキ

2024年春、私は悪いモノを目撃した。初めてイヤフォンから流れる彼らの音楽を耳にした時、ロックンロールは死んだなんてタラシかったのだと思ひ知らされた。ある日某配信サイトを覗き流していたところ、自爆に出会った。どこか古く懐かしいサウンド。ロゴやグッズ、精神性まで抜かりなく一貫したスタイル。

すぐにライブの予約をしたは良いものの、初めてのライブハウスにとても緊張していた。しかしそんな不安も「高松名人の爆音のリフを聴いた瞬間に吹き飛んだ。私の脳みそは爆発寸前で踵を正めようにも止まらない。私の人生で物凄く記憶に残っている瞬間のひとつだ。」

今宵君達はロックンロールのバトンを新たに引き継いだ最も古くも新しい音楽を耳にする。

衝動の時代に生きる

堀内 遥

今必要とされるべきものは何かそれは「衝動」である。誰もが声をあげられる反面、声を上げることもそのものの価値は減落した。故に真正面から衝動をぶつけてくる表現と出会うことは、ますます難しくなっている。また、今のチャートを狙う音楽は、大衆の嫌きやさすがに優先され、徹底的に漂白無害化される。つまり、社会にとって「扱いやすい」ように表現がテニ入れられていくのだ。このような時代だからこそ本気の「衝動」が求められている。

自爆の音楽は衝動の連鎖を生み出し、身体を描きぶるような直感が確かに存在している。いまを生きる実感として響いている。時代に飲み込まれない、そのまっすぐな衝動をこれからも響かせてほしい。

目玉のロックンロールバンド、始動

ウエノハルキ

2024年春、私は悪いモノを目撃した。初めてイヤフォンから流れる彼らの音楽を耳にした時、ロックンロールは死んだなんてタラシかったのだと思ひ知らされた。ある日某配信サイトを覗き流していたところ、自爆に出会った。どこか古く懐かしいサウンド。ロゴやグッズ、精神性まで抜かりなく一貫したスタイル。

すぐにライブの予約をしたは良いものの、初めてのライブハウスにとても緊張していた。しかしそんな不安も「高松名人の爆音のリフを聴いた瞬間に吹き飛んだ。私の脳みそは爆発寸前で踵を正めようにも止まらない。私の人生で物凄く記憶に残っている瞬間のひとつだ。」

今宵君達はロックンロールのバトンを新たに引き継いだ最も古くも新しい音楽を耳にする。

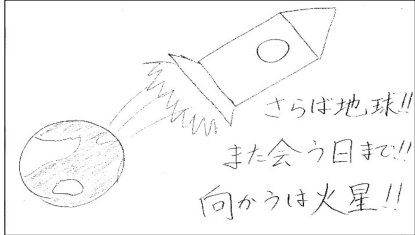
堀内 遥

今必要とされるべきものは何かそれは「衝動」である。誰もが声をあげられる反面、声を上げることもそのものの価値は減落した。故に真正面から衝動をぶつけてくる表現と出会うことは、ますます難しくなっている。また、今のチャートを狙う音楽は、大衆の嫌きやさすがに優先され、徹底的に漂白無害化される。つまり、社会にとって「扱いやすい」ように表現がテニ入れられていくのだ。このような時代だからこそ本気の「衝動」が求められている。

自爆の音楽は衝動の連鎖を生み出し、身体を描きぶるような直感が確かに存在している。いまを生きる実感として響いている。時代に飲み込まれない、そのまっすぐな衝動をこれからも響かせてほしい。

タコ

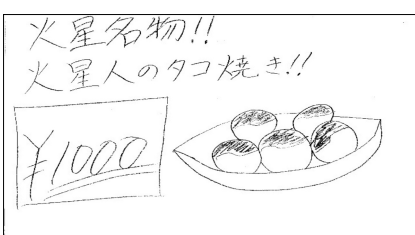
武田 ガンジー



さらば地球!!
また会う日まで!!
向かうは火星!!

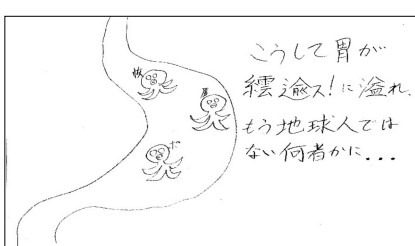


密かに squid さんへ
お話を聞かせて!!
火星さん!!
食べ!!



火星名物!!
火星人のタコ焼き!!

¥1000



こうして胃が
溢れに溢れ
地球人では
ない何者かに...